

公共施設に対する思い(「これからの公共施設を考えるワークショップ」(第1回))

No.	内容
1	公共も民間もない。全部民間。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少予測にあわせた施設の検討 ・利用状況の把握・公表、基準づくり(例:利用率30%未満原則廃止) ・ランニングコスト把握・公表 ・資産価値確認(簿価、時価) ・施設利用の有料化(パスポート) ・設置(建設)基準→施設を増やさない ・費用対効果が一番重要
3	とにかく市民にたくさん利用されること→利用されることは、使用者・施設どちらにとっても「幸せ」なことである。
4	「30年後を考える」は長い。10年でよい。ただし、次の人がまた10年後を考え、その次の人も10年後を考えるというサイクルにより、施設の利用方法をそのときの考えで見直す。
5	タダはだめ！いけいけドンドン×→株式会社方式、パスポート方式などを活用し、長期的視点により考える。
6	<ul style="list-style-type: none"> ①違う機能のものを特定の範囲に集める＝家族で一日過ごせる空間 ②風土に根ざした長持ちする美しい建物を！ ③統一する(料金、予約方法、空き状況)
7	必要な機能は、できるだけひとつにまとめる。
8	利用人数、維持費等により必要性を数値化。数値が悪い施設は閉鎖。
9	<ul style="list-style-type: none"> ①長期的なビジョンをもって公共施設を設ける ②若い世代が楽しく集える場所 ③使いやすく、楽しく元気になれる場所 ④公共施設はただではない
10	<ul style="list-style-type: none"> ・利用料金を少しずつ出してもらおう(年間パスポート方式でもよい)。 ・長い年月利用できる建物にして、子どもから大人まで利用できるように。 ・ひとつの施設で色々な楽しみができるように。
11	<ul style="list-style-type: none"> ・人口分布に基づいた施設設置(交通の便等) ・ジャンルを問わない複合施設(家族で利用できるもの) ・建てるだけでなく、その後のサービス提供についても向上心を備えた施設 ・いろいろな視点から考慮された、長く快適に利用できる施設
12	学校、警察、病院、保育園、老人ホーム 管理できないもの、余分なものは作らない。
13	<ul style="list-style-type: none"> ・維持管理のマニュアル化 ・一元化の推進 ・市民(お客様)目線で見直す ・維持コストの削減
14	使用できる物件、できない物件を分けて、使用可能な物件を利用して、少数の施設でいろいろな行事等をこなす。

No.	内容
15	<ul style="list-style-type: none"> ・施設利用については有料とする(維持管理費とする)。 →自分の施設としての認識が高まり、大切に使用。ごみを出さない。 ・当面と将来の構想を決める。ランドデザインとの整合性を(旧朝日丘小、市民会館、旧市庁舎、旧市民病院)。
16	<ul style="list-style-type: none"> ①市の施設は建てるのに力を入れているが、メンテナンスには力が注がれていない(長期的視点にたった運営)。管理を含めたしっかりとした計画のもとに作ってほしい。 ②いつまでも皆に喜ばれ、多くの人が利用する施設
17	<ul style="list-style-type: none"> ・維持管理費のことを考えて公共サービスをおろそかにしない。 ・更新施設は別施設として再生する。 ・土地利用を考えて計画検討する。